

## 支部だより

### マドリード外語会近況

加瀬公夫 (S昭47)

どこの地域も同様と思いますが、マドリードでも、一時期に比べると外語の卒業生で在住している人の数は激減しています。一番大きな理由は、やはり企業からの駐在員の数が減っていることです。これは、さらにマドリードに事務所、店を有する企業の数も減少していること外語の卒業生でスペインに拠点を有する企業に入る人の数が減っていること、などの複合的な状況の結果であると思われます。

そんな中で外語の卒業生で当地で活躍されている人々を以下にご紹介させていただきます。水野先輩 (S昭35) から幹事を引き受けるように言われてからずいぶん時間がたつのですが、忙しさにかまけて最近あまり外語会を開いていないことをお詫びします。またそんな事情で以下の説明が一部陳腐化しているかも知れませんのでご了承願います。

まず安藤先輩 (Po昭33)。大洋漁業を退かれてから Intermarine Trading という会社を経営されているとお伺いしています。水野 (健) さんは物産のスペイン会社の社長を辞められてからは、物産の子会社パセーコ社の社長に就任、退職の後、最近悠々自適の生活を送っております。また最近まではマドリード日本人会の会長も務められており、いわばマドリード日本人社会のなかで有名人のお一人です。その他、マドリード在住の永い方々は山本正恵 (S昭40) 保坂恵美子 (S昭41) 山浦宣 (S昭42) の先輩です。それぞれ Miki Travel、東京三菱銀行、自営という形で現地にしっかりと根を張っております。神崎泉さん (S昭61、歴史の関連で博士号を取得されているのでドクトーラ カンサキと言うべきでしょうか) は、数年前兼松の商権を継続したという形と了解いたしますが Zipango という商社の共同設立者として活躍されています。企業派遣で頑張っているらしい

のが、NEC の貞森 (S昭42)、住友海上の川又 (IP昭49) 大使館の淵上 (S昭49) さんなどの諸氏。異色と言えばマドリード王立音楽院で勉強をされている坪川真理子さん (S平7)。さらに国峰純一 (Po昭45) 宮崎光世 (S昭55) 小坂真理 (S昭62) 花方寿行 (S平4) 中島聡子 (S平5) 大使館の細田一等書記官と結婚されている細田晴子 (S平5) 小倉美紀 (S平8) さんなどが外語会の名簿に登録されています。最後に執筆者である私、加瀬はスペイン語科を昭和47年に卒業、英、米国での生活5年程度を除くと1972年以降ずっとマドリードに住んでいます。現在はバルセロナにあるESDEというイエズス会関連の経営大学院で企業戦略関係を教えています。計、30年近い期間、人生の半分以上を外で、特にマドリードで過ごしていますが、冠詞、単数、複数使用 (たとえばフケに相当する単語はスペイン語では複数にならない) などで未だにスペイン語で苦勞しています。マドリードは最近治安が悪く、特に日本人は路上でのひったくり、強盗などの対象になったりしていますが、全体的に見てスペインの人情のよさ、食べ物の旨さ、などから外語の人たちは皆さんマドリードに満足しながら生活されていると思います。スペインの一般的解釈では、21世紀はすでに2000年に始まったということでしたが、最近では実は2001年からだという声も出始めていて、今は20世紀なのか21世紀なのか知りませんが、新しい世紀での外語の御発展を願って、擱筆させていただきます。

### 北京支部だより

横田信男 (C昭37)

中国は今、WTO 加盟を前にして改革開放の第3期に入り、目まぐるしく変化をしています。そのお膝元にある東京外語会北京支部には現在56名が加入して、不定期ながら年に3~4回の会合をもって絆を強めております。

78年に開放政策がとられる前の中国は極めて閉鎖的で特異な地域であった為、相応の専門知識や語学力が要求され、所謂「プロ」として



50名以上が参加した北京支部会

我々東外大の先輩の存在感は大きいものでした。今も基本的にその特異性は何ら変わっておらず、「プロ」の活躍の場は依然としてあるものの、開放の範囲が広がり要員が足りません。また中国側も国際要員を教育し、受け入れ態勢の国際化が進み、英語、日本語での意志疎通が可能となり、他のアジア諸国向けと同レベルの駐在員で対応できるようになってきました。従って、数の上からはマスプロ大学の卒業生が幅をきかす状態になっていますが、我々は先輩諸氏の築いてくれた業績を汚すことのない存在感を維持すべく頑張っております。

当支部の構成員は昭和37年卒を筆頭に平成12年卒までが含まれ、その中では働き盛りの昭和40年後半～60年卒が中心をなし、また最近の特徴は女性の増加と中国科以外の卒業生の進出が見られることです（女性会員15名）。業界別に見ると中国の開放速度に呼応して多岐に分布していますが、その中ではマスコミ関係が10名とまとまっています。北京発の情報はかなりの部分同窓生から発信されています。加えて東外大在学中の留学生が例会に出席してくれるのも北京ならではの特徵で、初々しさを添えてくれます。中には就職活動の自己PRをするちゃっかり者もいます。

昨年12月9日にちょっと早い忘年会をかねて王府飯店なる豪華ホテルで例会を開催、20世紀最後ということもあり家族を交えての集まりとしたところ、50名以上の参加と、たまたまご来京中の林曉蓉先生ご夫妻をお迎えし、非常に賑やかな交歓会となりました。林先生も久しぶりの教え子との北京での対面で大喜び、あの時

の「子供」が子供連れとはと「お父さん」をしげしげ眺めていたのが印象的でした。

ゴルフ会も年に2回行っています。大阪、神戸を交えた3外大コンペですが、このところ実力では大阪勢に歯がたたず、少なくとも参加人数だけでも負けてはならぬと、デビュー2回目のビギナーまで招集しています。いまや北京にも10ヶ所近いゴルフ場ができ、冬期はクローズとなりますが、中国人プレーヤーの数も増え、まだ一部に偏っているとはいえ豊かに変身している一部分が垣間見えます。

今世紀は中国が主役と言われています。種々問題を内包してはいますが、13億人を有する国が勢いを持続してゆくと日本も安閑としていられません。Japan as No.1 でないことを実感した今、中国とは共存共栄精神で相互補完しあいながらの発展策をとるべき環境下、我々東京外語会北京支部会員の活躍の場は益々広がるものと認識し、更に輪を広げてゆく所存であります。

## 東京外語会関西支部4月発足へ

門馬寛巳（Ic昭35）

「関西外語会、発足へ」——こんなタイトルの予告記事が5年半前の当会報（No.75）に載った。当時、関西支部の発足を目指して10数名の有志が数回にわたり大阪で準備会を催したが、その後が続かず、今日に至ってしまった。

そんななかで、小生一昨年招待されて出席した大阪外語「咲耶会」の席上、本部の石原隆良氏（前支部連絡委員長）や上京の折にお会いした新田和夫氏（現支部連絡委員長）と懇談するうちに今年こそ関西支部の立ち上げを実現したいという気持ちが沸々と湧いてきたのである。この案にいち早く賛同してくれたのが橋野博君（D昭36）。彼は5年前の世話役の一人であり、「その当時、支部の発足を提唱され、準備会の実施にお骨折りいただいた仲田達男氏（C昭25）の恩義に報いたい」とやる気十分。さらに内田万里子さん（F昭38）と塩川裕爾君（M昭39）も発起人に加わっていただき、昨年暮れから今年はじめにかけて3回の小会合をもち、よ

うやく次の要領で第1回の「関西支部同窓会」を開催するはこびとなった。

日時：4月28日（土）午後4時30分受付開始、5時より総会、6時より懇親会

場所：ガーデンシティクラブ大阪（梅田ハービス6F）☎ 06-6343-7770

会費：9000円

ゲスト：中嶋嶺雄学長と中村博外語会理事長をお招きする予定。

既に関西在住の卒業生の方々には案内状を送付しましたが、届いていない方は、下記の4名の世話役のいずれかにお問い合わせ下さい。尚中国、四国地方の方で当日参加頂ける方が居られるなら大歓迎です。幹事宛にご一報ないしは当日会場にお越しください。

門馬寛巳（☎ 06-6267-7310 Fax06-6267-7384）  
h.momma@d6.dion.ne.jp）橋野 博（☎ 06-6343-1343, Fax06-6343-1346 iac@gol.com）

塩川裕爾（☎&Fax0742-51-0175,ky-shio@bolero.plala.or.jp）内田万里子（☎&Fax0727-24-1334, mariuchi@mb.infoweb.ne.jp）

## 東京外語会マニラ支部発足と 民族舞踊団マニラ公演

小木秀夫（Ph昭24）

平成12年3月6日東京外語大フィリピン語科民族舞踊団の来訪を迎えて在マニラの東京外語大OBと併せて大阪外語会の方々に協力して戴き、日本大使館主催でマニラのPhilam Life Theater 公演を鑑賞致しました。公演には駐在大使、マニラ日本人会会長らの挨拶、そしてマニラ新聞の橋本信彦氏（大阪外大Ph平5）が舞踊団の公演を大々的に掲載しましたので在マニラの日本人の来場が多く、整理券を出したくらいでした。鑑賞した後、舞踊団の歓迎懇親会と同時に東京外語会マニラ支部の正式設立を定め、会長に小林慎治氏（S昭31）を選任致しました。発会式はマニラ支部会長が夫人のカルメン小林さんを伴って初の挨拶をされました。ついで協賛者の大阪外語会会長谷文也氏が挨拶、東京から来た小木秀夫・イシ子夫妻が挨拶し、鈴木理事長からのマニラ支部発足と舞踊団激励



誕生したマニラ支部

のメッセージが読まれました。簡潔ながら的を射た言葉に同窓生一同、久しぶりの外語大の空気に触れ感激いたしておりました。会長の小林氏をはじめ、幹事の斉藤勝春（S昭43）新日鉄の中原秀男（H昭48）橋本定夫（E昭46）の4氏と平成新卒の坂井志をり（Ph平10）フィリピン大留学中の高野邦夫（Ph平10）岸上明子の諸氏の顔も見られ、東京11名大阪9名の支部発会は、舞踊団の後輩を交え盛大に行われました。ついで今回引率された山下先生からも公演についてのご報告と歓迎会の謝意が述べられ、舞踊団を代表してプリマドンナの並木香並美さんもお礼の挨拶をされた。歓迎会は皆去りがたくマニラの夜は長く熱く深夜の1時まで続けました。

## リオデジャネイロ外語同窓会と 日伯現代学術交流プログラム

牧田弘行（Po昭34）

会報90号に載った日伯交流プログラムで、留学生の交換が計画されたのは喜ばしいことです。日本の他の大学が当地の大学と留学生交換の提携を行っておりますのに母校は後れをとっていたことを残念に思っておりました。今年から母校の留学生の姿が見られるものと楽しみにしています。リオデジャネイロ外語同窓会では、留学生、教授の滞在期間中の社会生活、文化活動などの面で力になったり、お世話してあげること（例えば親代わりとして保証人になる）ができる等、話し合いました。永住している会員も8名おり、私的面でサポートを会員で考えて行うつもりです。他の地区や国で交換留学生の提携が行われているのかどうか、そこでは外語会がどのような支援を行っているのか、その実例があれば知りたいと思います。